

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

松永中学校区	校番 33	福山市立 柳津小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価はすべての学校で「十分満足できる」「おおむね満足できる」と評価された。 ・評価指標は短期では評価しにくい。評価項目の検討が必要。 ・学校情報の外部への発信は実態がよくわからず評価しにくい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その学年でつけるべき学力がついていない子どもが多く、学力定着に課題がある。 ・同調査の「意識調査」ではほとんどの項目で全国平均を上回っている。 ・挨拶ができる子どもが増えてきた。校区で取組んだ成果が見えてきた。 	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り開く子ども ・自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども ・「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。 ・「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。 ・「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る
---	---	--	--

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>進んで学び 豊かな心で たくましく生きる 児童の育成</p>

<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学びや活動を通して、基礎学力の向上、自己肯定感が高まりつつある。 ○児童のネット・ゲーム依存症への取組により依存度(IGT-10)37%が26%へと減少した。ネット・ゲームとの上手な付き合い方を学んだ。 ●長期欠席者、学力の向上が課題である。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材研究を通して、つまづきを把握し、単元のゴールを見据えた授業が徐々に展開できるようになった。 ●学力向上を目指し、さらに教材研究に取り組む必要がある。また、授業の中で児童が自己決定できる力や表現する力を育てていきたい。

<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分で考え、学び合い、豊かに表現する子(確かな学力・自己決定) 2 自分で決め、やり抜く子(自己肯定感) 3 地域とつながり、憧れをもちながら未来を創る子(豊かな心)
<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>自分の考えをもち、共に学び合う児童の育成 ～「つなぐ」を意識した学び合いを通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心とした各教科、及び特別活動を通して、児童同士の考えを「つなぐ」対話を重視した授業づくりを研究する。 ・自らの考えをもち、自信をもって自己決定できる児童を育成するための指導の在り方を追求する。
<p>めざす授業の姿</p>	<p>「学び合い」を通して、考えを深めたり、広げたりする授業。 児童が自ら考え、決定し、課題解決しようとする姿がある授業</p>

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
1	主体的な学び の授業づくり を進め、学ぶ 意欲と学力を 向上させる	★	継 続	基礎学力の定着・ 向上と学び続ける 力の育成 【学力調査で全国 平均以上】 体力の向上	○主体的になる課 題設定、自己決 定、学び合い、表 現へと児童同士が 「つなぐ」授業を 展開する。 ○学年に応じた時 間、家庭学習をさ せ家庭学習習慣 をつける。 ○体カテストの課 題克服に向けた取 り組みと外遊びを 楽しむ場の設定を する。	○教材研究の取り 組みをもとにした、 研究授業の実施 (一人1回以上授 業) ○「授業で、友だち の考えを聞いたり友 だちと話し合ったり することが楽しい。 と回答する児童8 5%以上 ○家庭学習(低)30 分以上、(中)40分 以上、(高)50分以 上の目標達成を8 5%以上 ○授業に課題克服 に向けた項目を取り 入れる。(毎授業) ○「運動やスポーツ をすることが好き」 と回答する児童8 5%以上								
1	児童の自己肯 定感の向上		新 規	よりよい生活を考 え、行動する児童 の育成	○地域人材「よう こそ先輩」のねら いに沿った単元・ 授業を開発し実施 する。 ○認め合える集団 づくりにより児童 が安心できる居場 所を創る。 ○あいさつ、掃除、 ネット・ゲーム利用 において自ら考え 行動する態度の育 成を図る。	○地域等の人材を ゲストティーチャー として招聘する。 1～5年生 年間3つ 以上 6年生 年間8つ以 上 ○「学校へ行くのが 楽しい」と回答する 児童85%以上 ○「自分で決めた生 活習慣(あいさつ、 掃除、ゲーム時間な ど)を守って行動で きた」と回答する児 童80%以上								

1	教職員の資質・能力の向上	新規	元気に児童と向き合い、地域に開かれた学校	<p>○職員室で児童の良さや指導について日常的に情報共有する。</p> <p>○学校通信、学級通信の定期的発行等によりこどもの成長を保護者地域へ積極的に発信する。</p>	<p>○「職場において困ったときに相談できる人がいる」と回答する職員を80%以上</p> <p>○学校通信、学級通信、HP更新を月1回以上発行し、こどもの成長を保護者・地域に届ける。</p>														
---	--------------	----	----------------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。